

営農ウィークリーNEWS

大原やさい研究会が勉強会を開催

～緑肥とぼかし肥料について情報交換～

3月20日JA大原支店において、大原やさい研究会の勉強会が開催され、会員や関係機関など20名が参加しました。「緑肥について」(JA経済部 荒木俊光)、「各種ぼかし肥料の特性比較」(普及センター松井氏)の講習および、ぼかし肥料を作成している4人の会員からぼかし肥料の作り方などの情報提供がありました。また、最後に4つのグループに分かれて各自の緑肥やぼかし肥料の取組経験についてディスカッションが行われ、有意義な情報交換が行われました。



熱心に聞き入る大原やさい研究会の会員ら



グループに分かれての経験交流で活発な意見交換

「緑肥」では、ヘアリーベッチ、レンゲ、スーダングラス、ソルゴーなどの取組経験があり、ベッチの播種遅れでの生育不良の事例や、マリーゴールドの導入予定など多くの経験交流ができました。また、有機質肥料を事前に醗酵させて肥効を早めたり、臭いを軽減できる「ぼかし肥料」では、米ぬか・油粕を主として乳酸菌で嫌気醗酵をさせている事例が多くありました。これは、好気醗酵だと切り返しが必要になるため、コンテナを利用してビニール袋で密閉して行う嫌気発酵がやりやすいとのことでした。注目緑肥3種は裏面に掲載。

—TAC information—

新 岩倉支店・北部経済センターオープン



旧 岩倉・市原野・花脊・大原支店が統合され、2023年3月27日より新岩倉支店・北部経済センターがオープンしました。今後とも倍旧のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。また、旧岩倉支店の解体工事のため5月中旬まで駐車場所が狭くなりますがご理解ご協力をお願い申し上げます。

注目緑肥3種

< ソルゴー（ソルガム） >

生育が早く、他の緑肥に比べて有機物の生産量が多い。5～7月に10a当り3～4kgの種子を散播し、数cmの深さでロータリー耕を行い覆土する。前作のある場合は無肥料とし、窒素分の少ない圃場では5kg/10a程度窒素の施肥を行う。播種後50～60日に出穂期までにすき込みを行う。2m近くなった場合は、フレールモアなどで破碎した後すき込むか、バックで倒してから、すき込むようにするとロータリーにからまないようにすき込むことができる。



< マリーゴールド「エバーグリーン」 >

キク科で植物体内や根からの分泌物に殺センチュウ物質が含まれており、ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウの密度を抑制する。分枝が旺盛で、株の老化が遅く硬くなりにくくて、早くから地面を覆い、雑草の密度抑制も図れる。5～7月に10a当り0.5kgの種子を条播または散播し、数cmの深さでロータリー耕を行い覆土する。90日間栽培後、すき込む。



< ヘアリーベッチ >

耐寒性に優れており、越冬可能な植物。春先から急生長し全面被覆となる。根は深く伸長するので排水性の改善になるが、湿地では生育悪い。マメ科の緑肥作物なので、根粒を形成し窒素固定を行うため、減肥や無肥料栽培が可能。他の雑草の生長を抑制する作用があるので、雑草防止にも効果がある。9～10月に10a当り



3～4kgの種子を散播し、数cmの深さでロータリー耕を行い覆土する。施肥は行わない。水田の場合、田植えの3週間前にフレールモアなどで細断し、ロータリー耕ですき込む。草丈40cm以下の場合は直接ロータリーですき込める。面積50cm四方の生草重が1kg程度あれば、無肥料で水稻栽培が可能。